

## 2020年度（令和2年度） 関西創価小学校 学校評価

### 1. めざす教育像

児童一人一人の健やかな心と身体を育み、確かな学力を育成する  
闊達・友情・根性をモットーとして、世界市民の基盤を育てる  
恵まれた自然環境の中で豊かな感性を磨き、平和の心を育む

### 2. 創価学園ミッション

創造性豊かな世界市民の育成

### 3. 学園生育成ポリシー [関西創価学園一貫教育]

一人も残らず、平和主義、文化主義、人間主義のグローバルリーダーに

### 4. スクールポリシー

明日も行きたくなる学校づくり

1. 創立者 池田先生のもとに集い合った全ての児童が「学ぶ喜び」を感じる学校
2. 創立者 池田先生のもとに集い合った全ての児童が「成長する喜び」を感じる学校

未来につながる学校づくり

1. 使命の舞台で活躍する「児童の可能性」を育てる学校
2. 創立精神を学び「平和を希求する心」を育てる学校
3. 世界の平和に貢献する「世界市民」を育てる学校

### 5. 中期的目標

#### (1) 学力を身に付けるための教育内容・方法の充実

- ・児童が落ち着いて学習に取り組み、友達と切磋琢磨する中で、基礎・基本の定着を図る。さらに、個に応じたきめ細かな指導や学力保障の取り組み、ICT機器の活用等の指導方法の工夫・改善により、児童に学ぶ楽しさを実感させ、授業や家庭学習等に主体的に取り組む意欲や態度を育成する。
- ・「基礎的な知識・技能」、「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力」及び「主体的に学習に取り組む態度」、いわゆる学力の三要素から構成される「確かな学力」や、本校の目指す3つの学力（「学んだ力」「学ぶ力」「学ぼうとする力」）を高めることに力点を置いていきたい。「学んだ力」とは、教科をはじめとする学習内容の基礎的・基本的な知識や技能であり、「学ぶ力」とは、問題を考えたり、学んだり、学びあっていく学習方法を含めた学び方である。そして「学ぼうとする力」は、学習内容に関心を持ち、進んで学んでいこうとする意欲や態度である。さらに、活用しよう、深めようとする力でもある。こうした学力をバランス良く育てることを目指し、教育目標や内容を見直していく。
- ・さらに、学習指導要領改訂の基本方針で示された、育成すべき資質・能力も視野に入れながら、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」という観点や「主体的・対話的で深い学び」という学びの本質的な観点も大事にしていきたい。そして、学級やグループで話し合い、発表し合うなどの協働的な学習や言語活動、各教科等における探究的な学習活動等に力を入れていく。

## (2) 豊かな人間性を育む教育内容の充実

- ・価値観の多様化とともに、社会全体にモラルの低下が見られ、社会性や規範意識、道徳心の低下などが指摘される現状を踏まえ、児童に基本的な生活習慣や規範意識を身に付けさせ、豊かな人間性や社会性を育む「心の教育」の充実を図りたい。特に、人・社会・自然などとかかわる体験活動や異学年交流、「ドリーム・プログラム」(卒業生による講演)の充実、家庭との連携を通して、心の教育の充実に向けた取り組みを推進する。
- ・また、いじめ、不登校等の未然防止、早期発見・早期解決に取り組み、一人一人を大切にし、児童の好ましい人間関係づくりを推進する。

## (3) 「世界市民」を育成するための教育内容の充実

- ・「世界市民」育成のために、1. 「世界の翼」となる英語教育の充実、2. 探求型の学習を進め「世界市民」としての「豊かな国際性」を育む教育を推進する。
- ・英語の短時間学習(英語モジュール)を含めた、英語の授業の充実を目指す。また、創価タイム(総合的な学習の時間)をはじめとした、英語以外の教科での世界市民教育の取り組みを充実させていく。

## (4) 時代に即した学校教育の推進(情報教育・連携教育)

- ・Society5.0の社会に生きる児童は、主体的に対応できるための様々な力が要求される。そのため、ICT機器を学習活動に積極的に活用し、児童の情報活用能力を培うとともに、情報モラル教育を推進し、Society5.0の社会に主体的に対応できる児童の育成を図っていく。
- ・また、急激に変化する社会の中で自立した一人の人間として成長していくためには、小学校から中学校へと移行していく段階で豊かな学びと育ちを保障していくことが重要である。そこで、児童の発達を軸に、小学校と中学校が児童の実態や前後のつながりを視野に入れた一貫性のある連携教育(小・中のブリッジプログラム)の充実に努めたい。

## (5) 規律正しい、安全で健康的な学校生活

- ・遠距離通学者が多い本校の場合、登下校時をはじめとする児童の生活における安全確保は重要な課題である。また、通学時のルールへの順守やマナーの向上などは、社会生活を営む上で、是非とも身につけさせたい習慣でもある。ルールへの徹底とともに心を育て、思いやりのあるマナーの向上を図る。
- ・児童の心身の健康を保持・増進していくために、リズムある生活習慣の定着を図るとともに、健康を大切にす意欲や態度を育てたい。また、学校給食では、安全・安心を最優先に衛生管理の徹底に努め、栄養教諭と連携して食に関する指導の充実を図り、望ましい食習慣の確立に取り組んでいく。

## (6) 教員の資質・能力の向上と研修の充実

- ・創価教育の目指す教育のあり方や、学校が直面する様々な教育課題の解決のため、教員の資質・能力の向上のための各種研修の充実を図る。
- ・授業力向上のため、校外研修への参加や、意図的・計画的な校内の授業研修を継続的に行っていく。

## (7) 入試広報、児童募集の充実と

- ・少子化が加速する中、本校の目指す教育として掲げている「可能性の育成」、「心の育成」、「世界市民の育成」を柱にした教育活動をより積極的に伝えていく。そのために、教育の具体的な実践映像なる動画を効果的に使いたい。また、ホームページを活用することによって教育革新のイメージをアピールしていく。
- ・学校見学会などの募集行事では、より本校の教育に関する理解を深めていただく機会として、体験授業・体験給食などを実施し、募集に結びつけていきたい。
- ・募集要項を受験生や保護者の利便性の拡大を目指し、WEB上に掲載。さらに、WEBを使用しての出願(WEB出願)を活用していく。

## 6. 本年度の取り組み内容および自己評価

### 〔1〕「確かな学力」の定着と伸長を図るための教育内容の充実〔確かな学力の育成〕

今年度の重点目標	具体的取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
(1) 授業力の向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>研究授業、公開授業の実施</li> <li>授業アンケート実施と活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教員が研究授業や公開授業を部会テーマ、個人テーマに基づいて計画的に行う</li> <li>授業アンケートの内容を見直し、授業力向上のための保護者・児童アンケートを実施する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間計画に基づいて研究授業や授業研究会を実施、全教員が公開する授業を行う</li> <li>授業アンケートにおいて児童、保護者の8割以上が授業への満足度を示している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教員が公開授業や研究授業を実施し、授業力の向上に努めた</li> <li>教育アドバイザーに授業参観を行っていただき、個人が授業改善のためのアドバイスを受けた</li> <li>外部講師を招いての授業自主研修会を2回実施した</li> <li>児童の授業アンケートにおいて、9割の児童が授業への肯定的評価を示した</li> <li>コロナ禍のため、保護者が来校しての授業公開は行えなかったため、保護者へのアンケートは実施していない</li> </ul>
(2) 家庭学習や読書習慣の定着 <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習の習慣化を図る</li> <li>万学の基礎である読書習慣を定着させる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「家庭学習の手引き」に示された時間や内容をもとに、保護者と協力して家庭での学習習慣を身につけさせる</li> <li>WEBの学習教材を有効に活用させる。</li> <li>チャレンジ図書(学年別課題図書)の読了、ノーベルトレイン(車内読書)、スキマ読書、ワンブック運動などを推進する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「家庭学習の手引き」に示された学年の学習時間を学年の8割の児童が達成している</li> <li>9割以上の児童が、チャレンジ図書(学年別課題図書)を読了している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5学年は7割以上の児童が目標の学習時間を達成したが、1学年は7割には達しなかった。</li> <li>家庭学習の時間を毎日記録し、取り組んだ学年もあった</li> <li>チャレンジ図書は、1学期は23%、2学期は84%、3学期は98%の児童が読了した。コロナ禍の影響で休校になった期間は本の貸し出しができなかったため、実質は2学期から読了を進める状況となったが、ほとんどの児童が読了できた</li> </ul>
(3) 成長保障と学力保障による学力の定着 <ul style="list-style-type: none"> <li>学力調査の活用と学力に課題のある児童への学力保障の取り組み</li> <li>学力の伸長を図るための評価基準の研究と作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>当該学年の学力の確実な定着に努めるとともに、学力に課題のある児童に、WEBの学習教材を有効に活用するなどして、学力保障の取り組みを行う</li> <li>絶対評価を行うための「ものさし」である評価表を作成している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力に課題のある児童に対して、サポートスタッフの教員がスタディサポート(補習や補助学習)を行っている [学力調査で課題が認められた児童]</li> <li>絶対評価を行うための「ものさし」である評価表を作成している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力調査の結果が出た7月以降に、各学年別に補習の取り組みを行った</li> <li>スタディサポートとして「スペシャルスタディ」と銘打って放課後の3日間、特別の補習を行った</li> <li>4・5・6年生は、対象児童に対して夏休みに2日間の補習を行い、学力保障に努めた</li> <li>5・6年生が校内の学力テストを実施し、結果に応じて補習も行った</li> <li>「創価の子」(通知表)作成のために集中討議を行い検討し、評価表を作成した</li> </ul>

### 〔2〕「豊かな人間性」を育むための教育の推進〔豊かな人間性の育成〕

今年度の重点目標	具体的取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
(1) 道徳教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>授業研究と道徳カリキュラムのブラッシュアップ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年の道徳カリキュラムと道徳全体計画に基づき、計画的に授業を進めるとともに評価研究を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳の公開授業を行い道徳の授業力を高める</li> <li>各学年の道徳カリキュラムと道徳全体計画を整備、更新する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>光村図書になり、新しい道徳教材のカリキュラムのもと授業を進めた</li> <li>2学期に2年生で「こんなときどうするかな」との教材で、親切・思いやりの心を学ぶ学習を公開授業で実施した</li> </ul>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年の道徳のカリキュラムに沿ってワークシートなども活用して授業を行った</li> <li>創価の子の道徳評価については引き続き検討していきたい</li> </ul>
<p>(2) 児童セーフティネットの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童が生き生きと学校生活を送るための取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生活アンケートを実施する</li> <li>不登校や学習障がいなど、課題を抱える児童のケースカンファレンスやいじめに関する研修会を開催する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートを実施し、課題を抱える児童のケースカンファレンスを積極的に行い、年2回以上の児童セーフティネット研修会を開催している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校再開前には親へのアンケートを実施し、児童の状況を把握した</li> <li>1学期は、登校再開後直後と2週間後に、児童に学校生活アンケートを実施し、児童のメンタル面も含めて把握した</li> <li>2学期は学校生活アンケートを実施し、いじめの実態がないかの聞き取り、確認を行った</li> <li>3学期は心配な状況が見られたクラスは、記述式のアンケートを実施して児童の状況を確認・指導した</li> <li>スクールカウンセラー、教育アドバイザー、管理職、関係教員が集まり、ケースカンファレンスを随時実施した</li> <li>年2回の児童セーフティネット研修を実施</li> <li>11月にいじめ防止研修を行い、いじめ防止基本方針を確認、未然に防止するための対応について研修した</li> <li>12月には不登校対応研修を行い、不登校児の現状を報告、不登校児の心を理解することについて学んだ</li> </ul>
<p>(3) 児童の育ちを互いに共有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童の育ちを共有するための生活ルーブリック評価表を作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>過程を評価するために、生活のルーブリック評価表を作成し、児童の育ちを共有できるようにする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>創価の子(通知表)の生活項目について、生活のルーブリック評価表を作成し、指導の目線を揃える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>創価の子の生活項目についての評価基準を作成し、評価の目線を合わせた</li> <li>評価方法についての検討は引き続き重ねていく</li> </ul>

〔3〕「世界市民」を育成するための教育の充実〔世界市民の育成〕

今年度の重点目標	具体的取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
<p>(1) 英語授業の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>週1コマの全学ET(イングリッシュタイム)の実施と5.6年生の英語教科化に伴う英語授業の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝のET(イングリッシュタイム)を担当のもとで実施するとともに、英語カリキュラムを充実させる</li> <li>5.6年生の英語教科化に伴う英語授業の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全学年で担任の指導の下朝のET(イングリッシュタイム)で、教材(Switchon)を実施する</li> <li>英語評価について検討する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語の教科化に伴い教科書を使い授業の充実に努めた</li> <li>英語の評価については、T2の教員が記録をとり、評価に役立てた</li> <li>評価については引き続き検討していく</li> </ul>
<p>(2) 国際交流活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体験交流の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際交流行事を通して、世界市民を育成する国際教育を進める</li> <li>※OEV(OSAKA ENGLISH VILLAGE)での英語研修の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グローバルキャンプ(5年生)、OEVでの英語研修の実施(6年生)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度はコロナ禍のため5年生と創価大学の留学生がZoomによるグローバルキャンプを実施した</li> <li>コロナ禍のため、OEVでの英語研修は実施していない</li> </ul>

<p>(3) 生活科と総合的学習(創価タイム)の充実</p> <p>・探究型学習への研究と移行</p>	<p>・新学習指導要領に基づいた総合的学習の全体計画のもと、生活科と総合的学習の時間をつないでいく</p> <p>・「平和」「環境」「人権」「開発」などをキーワードにした探究型学習の研究とカリキュラムの編成のための取り組みを行う</p>	<p>・年度初めに課題を設定する時間を設けて、大単元学習として取り組んでいる</p> <p>・「ともに生きることを考える世界市民の育成」を目標に、学習のプロセスで探究している</p>	<p>・今年度から生活科は担任が担当し、児童の実状に応じて授業を展開できるようにした</p> <p>・生活科では、児童が主体的に取り組む様子が多く見られ、余裕を持って授業を進めることができた</p> <p>・生活科ではT2の教員の応援のもと、授業を進めることができた</p> <p>・コロナ禍のため、カリキュラムを調整して取り組んだ</p> <p>・栽培活動は今後取り組み内容を集約していく</p> <p>・来年度も、大単元での探求型学習を進め、「世界市民の育成」を目指した学習内容を検討していく</p>
---	--	---	--

〔4〕時代に即した教育の推進 [情報教育・小中連携の推進]

今年度の重点目標	具体的取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
<p>(1) メディア教育を推進</p> <p>・ICT機器(パソコン・iPad)の活用とプログラミング教育の推進</p>	<p>・ICT機器を学習に使用したり、情報の時間で情報モラルについて学習したりしている</p> <p>・プログラミング学習について、授業を行ったり、研修をしたりして理解を深める</p>	<p>・Googleクラスルームで学習に取り組み、情報モラルについても学習している</p> <p>・高学年の情報で、プログラミング学習について授業を行っている</p>	<p>・GIGAスクール構想実現のため、高学年はChromebookを導入、Googleクラスルームを各教科で活用し学習に取り組んだ</p> <p>・低学年も一人一台の端末機を活用し、スキルアップに努めた、</p> <p>・情報モラルについては学年の発達段階に応じた学習を行った</p> <p>・プログラミング学習の更なる充実を目指していきたい</p>
<p>(2) 小中連携教育の推進</p> <p>・中学へのスムーズな進学ができるようにブリッジプログラムの充実</p>	<p>・小中連携年間計画にしたがって、ブリッジプログラムを行う</p> <p>・中学へのスムーズな移行ができるように小・中の連携を充実させる</p>	<p>・年間計画に沿って、学園ステイ、中学生生活ガイダンス、校長面談を行っている</p> <p>・3学期に連絡シートなどを活用し、小中連絡会議を行っている</p>	<p>・コロナ禍で学園ステイが実施できなかったため、2月にZoomによる中学生とのグループ懇談会を実施</p> <p>・2月に中学校管理職による中学生生活ガイダンスを実施</p> <p>・2月に中学への引き継ぎのための個別連絡シートを作成し、連絡会議を行った</p> <p>・中学校のカウンセラーが来校し、6年生を中心に児童の様子を観察した</p> <p>・中学校の教員が来校し、授業を参観した</p>

〔5〕規律正しい、安全で健康的な学校生活の確立 [児童生活の充実]

今年度の重点目標	具体取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
<p>(1) 積極的な児童指導</p> <p>・生活面における評価指標(せいかつのような)をもとに、礼儀礼節と規律の段階的指導の充実</p>	<p>・発達段階を踏まえた「挨拶」「マナー」「ルール」の指導を行う</p>	<p>・通学時には、進んで挨拶し、「思いやりノートク運動」を行っている</p> <p>・生活面における評価指標を定める</p>	<p>・児童部を中心にコロナ禍における児童指導を検討・実施</p> <p>・手洗い、換気の徹底を呼びかけた</p> <p>・児童の換気係を任命し教室の換気を徹底した</p>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「思いやりノートーク運動」を実施し、多くの児童が落ち着いて通学路を歩けるようになった</li> <li>・車内での過ごし方については、マナーとルールの定着を図るための学級指導を重ねた</li> <li>・3学期はさわやかな挨拶を行うよう指導・徹底した</li> <li>・保護者に向けて児童部だよりを発行した</li> <li>・生活面における評価指標の改善が必要</li> </ul>
<p>(2) 健康づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康増進、抵抗力をつけるための食育の充実と積極的な体力づくりの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食育の全体計画や体力向上計画に沿って、教科と連動する授業を行ったり、各種の体育的な大会を実施したりする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2か月に一回食育委員会を開催し、食育の充実を図っている</li> <li>・学期ごとに各種の体力向上の取組を行っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染防止のため、家庭では検温をして「健康チェックカード」に記入、登校時にはサーマルカメラによる検温を行った</li> <li>・食育委員会を開催し教科と連動した授業の実施報告を行った</li> <li>・毎日の給食トークで食を通して健康管理に努めることの大切さを訴えた</li> <li>・年間計画の基づいた食育の授業を各学年で実施</li> <li>・児童の考えた献立なども給食に生かした</li> <li>・体育推進委員を中心に各種の体力向上のための取り組みをコロナ対応の方法で開催し、体力の向上に努めた</li> <li>・コロナ禍の中であったが、水泳の授業をクラスごとに実施し、泳力を伸ばすことができた</li> <li>・集中健診後の治療率100%を目指して保護者に呼びかけた</li> <li>・校内けがの発生状況を分析した</li> <li>・毎日教員が保健室の来室者を確認できるシステムを導入した</li> </ul>
<p>(3) 安心・安全の指導の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防火、防犯、防災等の教育の強化や生活時間帯の遵守</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間計画に基づいて安心・安全のための指導・訓練を実施し、意識を高める</li> <li>・なかよし会（地域別児童班）の意義を再確認し、地域別指導を行う</li> <li>・活時間帯を遵守するための取り組みを行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年6回の各種訓練（避難・防災・防犯）や安全教室を行っている</li> <li>・早期下校訓練をなかよし会（地域別児童班）で実施している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間計画に基づき、コロナ対応のもと、各種の訓練を実施した</li> <li>・2月には、低学年の防犯教室を開催した</li> <li>・5年生は、警察官を招いて非行防止教室を開催した</li> <li>・児童部を中心に各学期末には安全教室を実施した</li> <li>・コロナ禍のため、校外児童会（なかよし会）による早期下校の訓練は実施していない</li> <li>・朝の登校時間帯の安全指導のために教員が駅や通学路で当番につき児童指導にあたった</li> </ul>

〔6〕 教員の資質・能力向上のための研修の充実と業務改善 [研修の充実と業務改善]

今年度の重点目標	具体的取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
(1) キャリア研修の実施 ・ 初任者研修や青年研修など、年代別のキャリア研修を実施し、教師力を高める	・ 初任者研修会、青年研修会を年間計画に則って行う	・ 年6回の初任者研修会、青年研修会を行い、教師力を高めている	・ 年間計画に沿って、年6回の初任者研修会と青年研修会を実施した ・ 受講者とともに担当する教員も、教師力の向上を図ることができた
(2) 教育力向上の研修の充実 ・ 校外から講師を招き、教育力を高める研修を年間計画に沿って行う	・ 校外研修へ積極的に参加したり、校外の講師を招いての研修を行ったりする	・ 外部講師を招いての研修を年2回以上行っている	・ 教育アドバイザーによる、研究授業協議会を2回、授業力向上のための研修会を2回実施。教案の作成から指導を受け、授業力を高めた ・ 教育アドバイザーから授業実践についてのアドバイスを受ける日を週3日設けた ・ 主任が教育アドバイザーと共に学年の教員の授業を参観し、指導の観点を教えていただいた ・ 研究授業を全教員が参観できる体制を整えた ・ 外部講師による算数自主研修会を2回行った
(3) 教務システム更新に伴う業務改革の推進 ・ 新システムのスムーズな導入と業務の見直し	・ 端末機(iPad)使用による会議の効率化を図る ・ 書類の標準化や会議のルールを徹底し、会議の価値化を図る	・ 教務システム導入が、負担軽減と質の高い教育力の向上に寄与している ・ 業務負担を軽減するなど、業務改善に努力している	・ シームスによる教務システムを導入して2年目となるため、昨年度の問題点を更に改善することができた ・ 教員用のパソコンがコンパクトになったため、職員室以外の場所での作業がしやすくなった ・ 今後も業務負担の軽減について検討していく

〔7〕 児童募集・家庭との連携の充実 [地域・家庭との連携]

今年度の重点目標	具体的取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
(1) 募集行事・広報活動の充実 ・ 広報ツールの充実とオープンキャンパスなど児童募集行事を行う	・ 広報ツールの充実と、魅力的なオープンキャンパスなどの児童募集行事を行う	・ ホームページや SNS などを効果的に活用し、体験授業・体験給食などを実施し、募集活動の充実を図っている	・ 児童募集部を中心に、コロナ禍での新たな児童募集の在り方を検討した ・ オンラインでの学校見学会や説明会を実施した ・ 新型コロナウイルス感染防止対策のもと、授業体験会を実施した ・ 説明会の日に授業体験も合わせて実施した ・ オンラインを活用して広報活動の充実を図った
(2) 家庭への情報発信 ・ メルポコを使用した家庭連携の迅速化や保護者ポータルサイトの活用  ・ 遅刻・欠席連絡フォームの保護者へ周知と活用	・ 定期的にメルポコを使用して、保護者にお知らせや学校の月行事予定等を発信する ・ 保護者ポータルサイトを設置し、保護者に有効な情報を発信する  ・ 遅刻・欠席連絡フォームを整備し、保護者に通知、活用してもらう	・ 月ごとにメルポコで行事予定や学校情報を発信している [月2回以上]  ・ 保護者ポータルサイトをWEB上に設置している  ・ 遅刻・欠席連絡フォームを保護者ポータルサイト上に整備、保護者が活用している	・ 月ごとの行事予定をメルポコで発信した ・ コロナ禍であったため、メルポコを活用して保護者へのお知らせは頻繁に発信した ・ 保護者ポータルサイトに多くの情報をアップし、保護者との連携を密にした ・ 保護者ポータルサイトに各種の連絡や学習コーナーなどを開設して、PDFで確認できるようにした

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・休校期間中は多くの学習動画をアップした</li> <li>・遅刻・欠席連絡フォームでの連絡方法を多くの保護者が活用している</li> </ul>
--	--	--	--

## 7. 自己評価の結果と分析

自己評価の結果と分析	
<p><b>〔1〕 確かな学力の育成</b></p> <p>○授業力向上のための研修を実施。外部講師による充実した研修、また、教育アドバイザーによる的確なアドバイスを受け、授業改善に取り組むことができた。</p> <p>○教員による学習サポートの体制を強化。学力調査の結果が出た以降に、結果が思わしくなかった児童を対象に「スペシャルスタディ」と銘打ち、学年ごとに曜日を決めて放課後の補習を行った。ここには、学年主任・担任以外の教員も担当につき児童の学習をサポートした。学習内容の定着を図る中で自信をつける児童も増えてきた。</p> <p>○家庭学習の定着については、家庭学習がしっかり定着している児童と、定着していない児童との個人差があった。漢字検定への取り組みに関しては、家庭でもしっかり取り組めた児童が多かった。ほぼ全員が合格するなど成果を出すことができた。</p> <p>○コロナ禍による休校の期間は動画を配信して学びを進めた。学校再開後はカリキュラムを変更したり、授業を工夫したりしながら、児童の学力保障に努めた。</p> <p>○家庭学習定着のための取り組みを今後はしっかり検討していきたい。</p>	
<p><b>〔2〕 豊かな人間性の育成</b></p> <p>○教育現場は、不登校や課題を抱える児童の対応や人権学習を含めた教育の強化が、より一層求められている。そのため、教師が児童に適切な指導・助言を行い児童の人間性を育めるよう、児童セーフティーネット研修を実施した。</p> <p>○スクールカウンセラーや教育アドバイザーを交えてケースカンファレンスを実施。児童や保護者に対するきめ細かな対応を心がけた。</p> <p>○児童一人一人に丁寧に寄り添えるよう、教師がチームになって状況を把握し、対応した。</p> <p>○道徳教育を重視し、児童の心を育む授業を目指した。更なる授業改善が必要である。</p>	
<p><b>〔3〕 世界市民の育成</b></p> <p>○5・6年生の英語の教科化に伴い、教科書を使って授業を展開。話すこと、聴くことを中心に英語によるコミュニケーション能力の向上に努めた。また、書くことにも積極的に取り組ませた。1年生から4年生までは外国語活動としての英語の授業を実施。楽しく英語に触れることを目指した授業を展開した。</p> <p>○5・6年生を教えている英語の教師は、関西創価高校でも教えているため、小中高を見通しての学習内容を行えるよう研究を進めた。</p> <p>○コロナ禍であったため、創価大学の留学生との交流である「グローバルキャンプ」はZoomを活用して実施した。直接的な触れ合いではなかったが、グループごとに留学生と会話することもでき、児童にとっては貴重な経験となった。オンラインでも交流できたため今後も、オンラインも活用し、様々な方法で海外の方との交流の機会を増やしていきたい。</p>	



#### 〔4〕情報教育・小中連携の推進

- 3年生から6年生まではChromebookを1年生と2年生はタブレットを一人一台配布した。高学年は操作にも慣れてきたため、Google クラブルームを使って学習を進めた。低学年はアプリを使ったり写真を撮ったりしながら操作に慣れることができた。来年度はプログラミング教育の充実を図り、Society5.0の社会で生きるためのスキルを身につけさせたい
- 小中ブリッジプログラムとして6年生が中学に安心して進学できるよう、中学校の先生方に来校していただきガイダンスを行った。また、コロナ禍で、6年生が学園で1泊2日を過ごす「学園ステイ」を実施することはできなかったため、中学の先輩方とZoomを使って交流した。中学校生活の説明やアドバイスを受けることができ、6年生の質問にも丁寧に答えていただいた。
- 中学校の先生方が来校し、授業参観をしたり、小中の養護教諭や小中のスクールカウンセラーが情報を交換したりすることを通して、児童の状況を把握していただけるようにした。
- 教員間の情報交流も含め、小中の連携をさらに密にしていく必要がある。

#### 〔5〕児童生活の充実

- 本年度は新型コロナウイルスの感染防止を第一に考え、児童が安心して学校生活を送れるよう対応した。「健康チェックカード」による体調管理、サーマルカメラ設置による朝の検温、マスクの着用、手洗いの励行、教室の換気などの対策を行い、感染防止に努めた。身体の接触を避けるために学習形態を変えたり、集いや行事の体制を変更したりしながら、コロナ禍であっても児童が充実した学校生活を送れるよう配慮した。毎週の朝会で、児童が頑張っている様子を伝え、注意すべきことは児童部長から徹底した。
- コロナ禍で水泳の授業を中止する学校も多かったが、本校は、水泳は児童の体力増進のために必要であると考え、密を防ぐためにクラス別で実施した。安全対策の面から担当の教員を決めて指導。少人数の良さを生かして、泳力を高めることができた。冬に体力増進のために行っていた持久走も全校児童がグラウンドで一斉に走るのではなく、クラス別に曜日を決め、体育館、第2アリーナを使い実施した。
- 自然災害や火災などを想定しての避難訓練は、密をさける体制で実施した。
- 児童指導にあたっては、「他人の不幸の上に自分の幸福を築くことはしない」との学園の精神を体得できるよう、他者には思いやりのある行動をとっていくことが大事であるとの指導を重ねた。車内やホームでのマナーの定着についてはまだ課題がある。

#### 〔6〕各種研修の充実

- 教育アドバイザーによる研究協議会を2回、授業力向上のための研修会を2回実施。教案の作成から授業の展開まで丁寧にアドバイスをしていただいた。
- 教育アドバイザーから授業実践についてのアドバイスを受ける日を週3日設けた。
- 外部講師による算数自主研修会(オンライン)を年2回行った。
- 学校教育において、不登校やいじめ、発達の課題など直面する課題は年々増えてきている。そうした課題にチームで取り組むために、いじめ問題や不登校に関する研修を行った。

#### 〔7〕地域・家庭との連携

- コロナ禍のため、本年度は地域の方や受験希望者の方の来校には制限があった。児童募集部を中心に新たな児童募集のあり方を検討し、オンラインによる学校見学会や説明会を実施した。
- 新型コロナウイルス感染防止策をとり、人数を制限する中で、説明会並びに授業体験会を実施することができた。
- 休校中の学校の取り組みや確認事項は、メルポコや保護者ポータルサイトを活用した。休校中は、Google フォームを利用して保護者の方から学習動画の視聴状況や家庭での児童の様子を教えていただいた。
- 入学式は動画を配信して実施した。
- 競技大会、音楽発表会、児童作品展、書初め大会の様子を動画で配信した。

○授業公開が開催できず、保護者の方が児童の様子を見ることができなかつたため、3月にクラスごとに児童の学習の様子がわかる動画を作成し配信した。

## 8. 総括と改善

自己評価と学校関係者評価を踏まえ、今後の重点的な目標・計画・改善方策および学校運営のあり方について以下にまとめた。

### 1. 今後、重点的に取り組む目標・計画

本校が掲げている学校教育目標は、小・中・高の一貫性を踏まえ、可能性の育成・心の育成・世界市民の育成と、ポイントを三つに集約し、まとめたものである。この目標は、創価学園のミッション・関西創価学園育成ポリシーを視野に入れ、児童の健全な成長にとって適切かつ重要なものであると考えている。今後も発展的に継続する目標として掲げていきたい。とともに、目標に示した各項目については、さらにその成果を上げるための計画および具体的な方法や評価方法を検討していきたい。

### 2. 今後の改善方策

#### (1) 確かな学力の育成ための「各種取り組み」の充実

[授業力向上、三者協力(児童・教師・保護者)による学力の向上、学力の定着(学力保障)の強化]

教師の授業力を向上させるためには、教員自身が自分の授業を分析していくことが大事になってくる。また、他の教員の授業を参観する機会があれば、客観的に自身の授業を見直していくことができるようになる。今後は、授業力向上のために毎月、「授業力向上 WEEK」を設け、積極的に他の教員の授業を参観することを推進していきたい。教育アドバイザーからの助言も受けながら、教師一人一人の授業力を向上させることに努めていきたい。更に学年が掲げた家庭学習の時間が定着するよう、児童への指導と共に家庭との連携も密にしていきたい。家庭学習の定着率が高い学年や学力保障に取り組んでいる学年の工夫を共有していく。放課後の保障(スペシャルスタディ)の時間も活用しながら、児童が学ぶ喜び、できる喜びを味わうことができる学力保障の取り組みを実施していく。

#### (2) 豊かな人間性を育むための「心の教育」の充実

[読書教育の推進、特別の教科道徳の実践、児童セーフティネットの充実]

- ①心を育む教育を充実させる手立てとして、読書教育の推進に取り組んでいく。今までは多読を推進する傾向にあったが、今後は、良書を読むことに重点を置いていきたい。また、良書に親しむことが国語科の学習の深化に連動していくような取り組みを目指していきたい。
- ②児童の人間性を育むためには、道徳の授業を充実させることが重要になる。公開授業を通して、積極的に授業の実践事例から学んでいきたい。
- ③児童セーフティネット研修も充実させながら、いじめ・不登校・課題児への関り方を見直すことで、児童が安心して学校生活を送ることができる方途を模索していきたい。

#### (3) 「世界市民」を育成するための教育の充実

[英語学習の充実・総合的な学習の研究推進]

- ①毎朝行っている英語の短時間学習(モジュール学習)である「イングリッシュタイム」の内容を検討し、充実を目指していく。高学年(5・6年生)の英語教育の充実を図っていくために、「暗唱大会」を実施する。

②創価タイム(総合的な学習の時間)で情報(プログラミング)教育の学習を行い、「世界市民」育成という観点を視座に学習活動を充実させていく。引き続き、探究型の学習形態を視野に入れた、創価タイム(総合的な学習の時間)のあり方を研鑽していく。

### 3. 今後の学校運営のあり方

創立精神や教育方針を根幹にした、教育活動を展開し、「明るい子」「思いやりのある子」「ねばり強い子」を育てていきたい。児童が学ぶ喜びを実感できる授業を目指して、授業改善に取り組んでいく。そのために、教員が研鑽を重ね、授業力を向上させることができる手立てを図っていきたい。また、児童自身が抱える様々な課題(発達の課題・学習の課題)については、教員の力を結集しての取り組みが必要になる。教育アドバイザーやカウンセラーの助言を受け、皆で協議し、家庭と連携をとりながら、丁寧に対応していきたい。そして、教員が資質向上に努め、より一層の教育内容の充実を図れる学校運営に取り組んでいきたい。

以上